

令和6年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

勤務医を取り巻く環境は、医療安全対策、研修医の指導、自らの生涯教育のあり方など、課題が多岐にわたっている。特に、24年4月にスタートした医師の働き方改革については、各医療機関での「宿日直許可」「救急医療」「労働と研鑽」「タスクシフト・タスクシェア」などの対応が一定程度奏効し、最も懸念された救急体制や周産期医療体制に大きな混乱はなく、地域医療提供体制への影響は最小限に抑えられていると見られる。一方で、医師の健康への配慮や病院経営の課題等は依然として残されており、引き続き多角的に検討を重ねるとともに、今後も地域医療提供体制が安定して維持されるよう、全ての医師が一丸となって向き合っていかなければならない。

また、医師偏在対策についての議論も活発化しており、これまでの若手医師を対象とした医師養成課程中心の対策のみならず、医師全体に関わる問題として議論が進むことから、予断を許さない状況が続くものと思われる。

勤務医部会としては、いかなる状況にも対応できるよう、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取り組んでおり、今後も継続的に協議し、府医と連携しながら、必要に応じて行政へ提言していく。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来40年を迎えた。部会員数、即ち、B・C会員数は、令和7年1月1日現在、2,114名（昨年より112名増）で、京都府医師会総会員中、47.3%を勤務医部会員が占めている。しかしながら、依然として全国平均の55.3%（令和6年11月1日現在での日医集計による）と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約3分の2が医師会に未加入であることを考えると、勤務医の組織率が低い状況にある。

過去8年間の勤務医部会会員数の推移

年	勤務医部会会員数	京都府医師会総会員数	割合
令和7年	2,114名	4,471名	47.3%
令和6年	2,002名	4,383名	45.7%
令和5年	1,993名	4,372名	45.6%
令和4年	2,024名	4,400名	46.0%
令和3年	2,013名	4,399名	45.7%
令和2年	1,962名	4,369名	44.9%
令和元年	1,942名	4,367名	44.4%
平成30年	1,891名	4,339名	43.6%

※基準日：1月1日現在

3. 部会役員

松井道宣勤務医部会長のもと、幹事長に若園吉裕氏、副幹事長には沢田尚久氏、白神幸太郎氏、平田学氏、清水恒広氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。

なお、任期は府医役員に準じ2025年6月定時代議員会までとなる。

勤務医部会幹事会名簿

(令和7年1月1日現在)

役職	氏名	医療機関
部会長	松井 道宣	京都府医師会長／同仁会クリニック
幹事長	若園 吉裕	京都桂病院
副幹事長	沢田 尚久	京都第一赤十字病院
〃	白神 幸太郎	京都医療センター
〃	平田 学	京都第二赤十字病院
〃	清水 恒広	京都市立病院
幹事	山崎 正貴	京都鞍馬口医療センター
〃	松本 恭明	堀川病院
〃	飯沼 昌二	洛和会丸太町病院
〃	清水 聡	新京都南病院
〃	永田 一洋	康生会武田病院
〃	藤田 陽太	日本バプテスト病院
〃	谷川 徹	北山病院
〃	内田 敦子	内田病院
〃	兼子 裕人	愛生会山科病院
〃	一瀬 増太郎	洛和会音羽病院
〃	馬場 一泰	医仁会武田総合病院
〃	大野 智之	京都済生会病院
〃	金 修一	宇治武田病院
〃	濱田 拓男	六地藏総合病院
〃	鹿野 勉	京都岡本記念病院
〃	石原 潔	京都山城総合医療センター
〃	久保 恭臣	亀岡市立病院
〃	計良 夏哉	京都中部総合医療センター
〃	高升 正彦	綾部市立病院
〃	阪上 順一	市立福知山市民病院
〃	富士原 正人	京都ルネス病院
〃	加藤 雅之	舞鶴共済病院
〃	酒井 克之	舞鶴医療センター
〃	堅田 和弘	京都府立医科大学附属北部医療センター
〃	小濱 和貴	京都大学医学部附属病院
〃	高山 浩一	京都府立医科大学附属病院

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

令和6年度も幹事会を2回、正副幹事長会を2回開催し、今期の事業内容を検討するとともに、総会の運営等について協議した。特に24年4月に施行された医師の働き方改革については、施行後の個々の医療機関の現状と地域医療提供体制の確保、各医師のキャリア形成とワークライフバランスの観点などについて、慎重に議論を重ねた。

開催日	会合名	協議事項
6.8.10	幹事会	(1)第50回京都医学会について (2)医師の働き方改革について (3)医師会の組織強化について (4)医師偏在対策について (5)令和6年度(第40回)勤務医部会総会について
7.1.11	幹事会	(1)令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の状況について (2)令和6年度(第40回)勤務医部会総会について (3)勤務医部会設立40周年記念誌について (4)医師の働き方改革施行後の状況について

5. 京都府医師会への入会促進

2016年度より始まった初期研修医の医師会費無料化を受けて、各臨床研修指定病院のご協力のもと、積極的な入会促進を行い、令和6年度新研修医95名の入会を得ることができた。

6. 第50回京都医学会への協力

今年50回目となる京都医学会は9月29日(日)に開催。「京都をつなぐ、来るべき100年時代!」をメインテーマに掲げ、特別企画を盛り込むなど節目の記念大会にふさわしいプログラムで実施した。会員の利便性の観点から、全プログラムをライブで配信するとともに、その後1ヶ月間にわたってアーカイブ配信を行った。

今回の特別演題は『人生100年時代の健康寿命延伸戦略—京丹後長寿コホート研究の知見を含めて—』をテーマに、京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器・腎臓内科学教授の的場聖明氏にご講演いただいた。

シンポジウムは『老化と対話する医療から新しい健康概念へ』をテーマとして、京都大学医学部附属病院高齢者医療ユニット長/地域ネットワーク医療部准教授の近藤祥司氏を総括者として、慶應義塾大学看護医療学部教授/医学部百寿総合研究センター兼担教授の新井康通氏、JCHO 京都鞍馬口医療センター院長の水野敏樹氏にそれぞれお話を伺った。

一般演題では、勤務医から56題(初期研修医12題含む)の応募があり、いずれも日常診療に基づいた興味深い取り組みや貴重な症例報告であった。

また、新企画として、各専門医会の協力を得て「専門医会レクチャー」を実施。自身の専門領域以外の話題についても広く知識を得ることを目的に、各専門医会から推薦された講師が最近話題のトピックスを20分間にコンパクトにまとめて発表した。

また、昨年に始まった「Re-1 グランプリ」「臨床研究道場」も引き続き実施。Re-1 グランプリは、若手指導医自身が学び直しを行う企画で、工夫を凝らしたレクチャーとユニークな演出に、会場は所属や世代を超えて盛況であった。オンライン投票による“最もよかったレクチャーを行った指導医”には松井府医会長から「教育情熱賞」が贈られた。

臨床研究道場は、研究や学会発表、論文作成といった学術活動を支援する試みで、研究立案や解析、解釈のポイントについてサポートした。

7. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

8. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

令和6年10月26日(土)、福岡市で開催された令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会(福岡県医師会主管)に若園幹事長および上田府医副会長、尾池府医理事、事務局が参加した。協議会はメインテーマを「勤務医の声を医師会へ、そして国へ～医師会の組織力が医療を守る～」とし、組織強化や地域医療構想などについて、フロアからの質疑応答も含めて、活発な議論がなされた。なお、協議会当日には「ふくおか宣言」が提案、採択された。

9. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会への参加

令和6年5月17日(金)、令和6年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が開催され、尾池府医理事、事務局が参加した。

細川日医常任理事からは「大規模災害と勤務医」と題して能登半島地震におけるJMATの活動を中心に日医の災害対応について報告がなされたほか、今村日医常任理事からは「若手医師の期待に応える医師会の姿」をテーマに未来医師会ビジョン委員会のこれまでの活動と今期の議論内容・答申の概要について報告があった。